

親子間における自尊心の類似性

○橋本博文 (安田女子大学)

前田 楓 (安田女子大学大学院)

キーワード：自尊心，親子，類似性

問題と目的

近年の国際比較調査によれば，日本人若者層の自尊心の水準は諸外国と比べて低い水準にあるとされている（例えば，内閣府統計局，2014）。また，現代になるほど日本人の自尊心の得点が低下している可能性を指摘するメタ分析の結果（小塩ら，2014）や，小・中学生の学年別データから，学年が上がるにつれて自尊心の水準が低下することを示す分析結果（古荘，2007）なども示されている。こうした調査結果は，日本人の（とりわけ若年層の）自尊心の低さないし低下トレンドを定量的に示すものであるが，これらの結果が持つ意味をより正確に理解するためには，日本人（若者層）の自尊心について，さまざまな観点からの分析が必要となる。本研究では，親子間の相互作用が自尊心にもたらす影響に着目し，子どもと親の自尊心の類似性について検討する。養育者としての親の態度を，子どもが意識的ないし無意識的に内面化していくプロセスを考えれば，養育者との相互作用の中で形成される子どもの自尊心は親の自尊心とある程度類似していると予測される。しかし，この類似性を実証的に検討しようとした先行研究は少ない。本研究の目的は，親子間のペアデータないしトライアドデータを収集するかたちで，親と子の自尊心の類似性についての定量的なデータを示すことにある。

予備調査

調査対象者 女子大学生 52 名（平均年齢 18.39 歳）とその母親 52 名（平均年齢 49.15 歳）。

手続きおよび倫理的配慮 大学の講義終了時に質問紙を配布し，自宅で学生とその母親に質問項目への回答を求めた。回答前に（1）質問への回答は任意であること，（2）質問への回答は，氏名などの個人情報とは完全に切り離されるため，匿名性がきちんと守られていることを説明し，倫理的な配慮を行った。

自尊心尺度 Rosenberg (1965) の尺度を翻訳した山本・松井・山成 (1982) の尺度（10 項目）を用いた（「全くそう思わない（1）」から「強く思う（7）」の 7 件法で回答を求めた）。自尊心尺度の α 係数は，女子大学生.91，母親.89 であり，いずれも満足できる水準であった。

結果 親子間の自尊心得点の類似性を検討するため，二者間の級内相関係数を算出した。その結果，

級内相関係数は.15 (95%CI [-.13, .40]) であり，母子間においてある程度の類似性が示された。

本調査

調査対象者 女子大学生 103 名（平均年齢 19.8 歳），母親 101 名（平均年齢 50.2 歳），父親 97 名（平均年齢 52.4 歳）。内訳は，父母子 95 組，母子のみ 6 組，父子のみ 2 組，総計 103 組であった。手続きおよび自尊心を測定するために用いた尺度については予備調査と同様であった。自尊心尺度の α 係数は，女子大学生.87，母親.91，父親.89 であり，いずれも満足できる水準であった。

結果 予備調査と同様に，自尊心得点の親子間の類似性を検討するため，二者間および三者間の級内相関係数を算出した。その結果，女子大学生と母の級内相関係数は.20 (95%CI [-.01, .38])，女子大学生と父の級内相関係数は-.11，三者間の級内相関係数は.05 であった。なお，夫婦間の級内相関係数は.01 であった (Table 1)。

Table 1 自尊心得点の級内相関係数 (* $p < .05$)

データ	自尊心得点	95%信頼区間
子 - 母 - 父	.05	[-.06, .18]
子 - 母	.20*	[-.01, .38]
子 - 父	-.11	[-.31, .09]
母 - 父	.01	[-.20, .21]

考 察

予備調査および本調査において一貫して，女子大学生とその母親の自尊心得点の級内相関係数が有意となり，その類似性が示唆された。一方で，女子大学生とその父親の類似性や夫婦間，三者間の類似性は確認されなかった。子どもの心の性質に対する影響については，比較的多くの時間をともに過ごしている母親の方がより大きい可能性を示す先行研究（例えば，森下，1982）もあるが，本研究は女子大学生のみを対象としており，過度な一般化は差し控えるべきであろう。しかし，少なくとも女子大学生とその母親の自尊心の水準にある程度の類似性が示された事実は示唆に富むものである。男子大学生とその父親の類似性を検討することや，こうした親子間の類似性が「なぜ」示されるのかについての詳細な分析を行うことが今後の課題である。